



農家と農業委員会をつなぐ広報誌

いわいの大地

Iwano Daichi

一関市大東町 中沢田牧場
菅原 眞優花さん (大原小学校3年生)

撮影 石川 誠司 農業委員

三浦 熙さんは高校を卒業後、県立農業大学校に進学し、「本格的に大好きな牛飼いにチャレンジしたい!」と決意を新たに就農しました。

現在、繁殖牛45頭、育成牛13頭、肥育牛50頭の一貫飼育をしながら、水田も稲作付2ヘクタール、WCS (稲発酵粗飼料) 3



努力が報われる 農業経営をめざして

【花泉地域】.....

三浦 熙さん(26)

ヘクタール、永年性牧草6ヘクタールと、合わせて11ヘクタールを耕作し利用しています。

「繁殖牛・肥育牛とも成育段階に応じた1頭ごとの個体管理は大変ですが、愛情を込めて接する様子を気をつけています。」と話す熙さん。

趣味は、愛車ストリームで友達とドライブすることだとか。

父、健さんは、「牛飼いは、農政や新型コロナウイルス感染症拡大のように、その時の社会情勢に大きく影響される面もあるが、高値で取引されたときなどは、努力が報われた思いと新たな意欲が湧いてくる。健康に気をつけてのびのびと、農業を楽しみながら、先輩方に可愛がられ地域からも信頼される人に成長して欲しい。」と目を細めながら笑顔で話してくれました。

新年のごあいさつ



一関市農業委員会
会長
伊藤 公夫

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様方には健やかな新年をお迎えのことと存じます。

さて、昨年来わが国を含む世界は、新型コロナウイルスウィルス感染症の拡大という難局に直面しており、農業経営に与える影響も長期化しています。

このような中で、昨年末から農家の担い手不足や遊休農地の増加に対応するため、地域農業マスタープラン実質化の話し合いを進めています。その中で担い手の確保・育成、基盤整備の促進、魅力ある農業経営の実現、法人化など地域の課題が明らかになってきたところであります。

農業委員会は、貴重な農地を次の世代に引き継ぐため、優良農地を守り、新規参入を進めるなど、農業・農村の声を代表する機関として様々な農業の課題に総力を挙げて取り組んで参ります。

現体制の農業委員会は、本年9月に3年間の任期満了を迎えます。新しい農業委員及び農地利用最適化推進委員の選任にあたっては、広く公募いたしますので、この機会に農業委員会の活動に関心をもっていただき、ご推薦・ご応募いただければ幸いです。

年頭にあたり、今年の豊作と皆様方のご多幸を祈念し、農業委員会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさついたします。



『地域農業マスタープラン』の作成で農業の未来を考えよう!

昨年10月から、農業委員・農地利用最適化推進委員が参加して各地でプラン作成に向けた話し合いが行われています。参加委員の感想を紹介します。

地域農業
マスター
プランって?



農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など地域農業の課題を解決するため、みんなで話し合い、まとめる

「集落の未来設計図」
です。



室根地区

室根地区では、中山間制度の「集落戦略」作成と合わせて19会場で話し合いを実施しました。

農地利用の年齢は、75歳以上の割合が多く、農地の管理状況は、現在9割以上は出来ていますが、5年後の農地管理可能な意向は7割になります。

集落の現状は、担い手が少ない、山間地で耕作条件の悪い農地が多いなどの課題が多く出されました。

地域の農業・農地を守っていくために、国道・県道付近の基盤整備、担い手の確保、中山間交付金の活用などの意見が出されました。

藤原美喜男【農業委員】

これからのスケジュール

①地域の話し合い

令和2年10月下旬～令和3年2月頃

②新「地域農業マスタープラン」の作成 令和3年3月(予定)



千厩地区

旧千厩地区は一本にまとめ地域マスタープランを作成していましたが、今回は各農家組合、中山間集落協定地区、農地が点在している市街化地区で話し合いが行われました。

一方、磐清水地区、寺沢地区、濁沼地区でも話し合いが行われました。

現在は何とか集落で農地の維持を行っていますが、将来担い手がいない点では、市街化地区、農振地区共通しています。農地を地域のコミュニティの中に位置づけ生かすとか、地域自給農家を作るとか、今後も継続して協議する必要があります。

千葉 太郎【農地利用最適化推進委員】



東山地区

11月13日に、農政推進員、認定農業者及び中山間関係者等34人が出席、課題毎に話し合い発表後、質疑応答したり意見を述べ合いました。また、関係機関の職員からアドバイスをもらうなど、活発な話し合いの場となりました。

水害地域での基盤整備に参考となる意見などが多々あり、一方10アール程度でも採算を度外視して楽しんで米作りをしている人もいます、という話もありました。

次回以降は、行政区の皆さんにも出席してもらうべきであるという意見が出るなど、有意義な話し合いでした。

菅原 清一

【農地利用最適化推進委員】

話し合いの内容

- ①集落の現状把握 現況地図による農地の現状把握
- ②集落の課題確認 集落農業の課題と解決策
- ③将来の集落農業 担い手へ農地の集積、農地の活用方針



川崎地区

アンケートから耕作地を色分けし見える化した地図を改めて見直してみると、戦後開墾開拓された農地で食料や高収益作物のタバコ・養蚕の桑など栽培され農家の収益になっていたことが分かります。

時代が進むにつれ産業の変化や輸入品・食生活の多様化により荒廃農地が増えていきます。この地域で農業だけの生計は厳しい。専業農家・兼業農家など農業に携わる形はいろいろありますが、土に携わることをやめれば農村のコミュニティは廃れるだけです。大規模化だけではなく小さな農家を守っていくことが必要と感じました。

遠藤 勝幸【農業委員】



藤沢地区

マスタープラン作成の大前提である、地域ごとの話し合いの場を設け、実際の農業者の声を聞くことによって、より具体的な今後の農業の課題を知ることができました。アンケートの結果より現在の農業者の年齢の現状と耕作面積の管理状況をふまえ、5年後の意向を課題とし、解決方法を話し合うことによって地域がひとつとなって進むべき方向を確かめることができたし、地域を知ることによって、より現実的な担い手への移行の時期や農地の活用法を話し合うことができたと思います。

菅原 良博【農地利用最適化推進委員】



地域農業の課題解決へ意見交換 令和2年度農業委員会と市長との懇談会



一関市農業委員会と市長との懇談会が、昨年11月25日、川崎市民センターで開催されました。10月に市長へ提出した意見書への回答を踏まえて、農業・農村をめぐる課題について意見交換しました。

懇談会には、農業委員と農地利用最適化推進委員42人、市側からは勝部市長に代わって出席の高橋邦夫副市長、小崎龍農林部長のほか農林部幹部職員6人が出席。

石川誠司農政専門委員長と高橋副市長がいざつし、その後石川委員長が座長となって懇談会を進行。まず、「一関市の農業の情勢について」と題して小崎農林部長から、当市のコロナ禍への対応、農業農村の役割や農村集落の現状と今後などについての講演の後、懇談会に入りました。

懇談は、意見書の項目ごとに市の取組みについて回答があり、その後意見交換という流れで進められました。終了予定時間となって意見交換を終了し、最後に伊藤公夫会長からのお礼のあいさつで懇談会を終りました。

意見交換での主なやりとりは以下のとおりです。

● 担い手への農地利用の集積・集約化について

千田幹雄・農業委員「千厩地域」

■委員 この間地域農業マスタープランの集まりを持って感じた事だが、まだまだ地域をどうしていくかという感覚が薄いなど思った。将来自分が稼げなくなったらどうするか、後継者がいますかと質問したら、50人ぐらいの参加者の中で一人も手を挙げる人がいなかった。現状を心配しているけどもどうやっていったらいいかわからない、というのが現実のようだ。関係機関の方はセクシオンを広げて、一つひとつある程度方向性を決めて地域に伝えることが必要と思う。

■市 地域・集落によって状況はさまざまある。地域の農業をどうやって進めて行くか、担い手の育成、集落営農の推進など地域の課題解決に向けて、関係機関はサポートしていかなければならない。

●遊休農地の発生防止・解消について
菅原吉昭・農地利用最適化推進委員

「一関地域」

■委員 野菜は担い手が使う面積が限られるため、どちらかという面積を確保する方が遊休農地の解消につながると思う。

年々米に代わって転作作物の作付けを進めてはいるが、十分な支援を行ってほしい。

■市 来年度の米の生産数量は、今年度よりだいぶ減らされる見込みだ。主食用から飼料用へあるいは高収益作物への転換を進めていかなければならない。国の方でそれに向けた支援を行うとの報道がある。その動向を見ながら市の支援を検討していきたい。

● 有害鳥獣による農作物被害の軽減について

菅原豊一・農地利用最適化推進委員

「大東地域」

■委員 私はりんごを作っているものだから、鳥獣害が一番困る。クマ対策に電牧設置したが、そのすき間をぬってハクビシンやタヌキが来る。カラスやハトも来る。年々頭数が増えているように思う。おかげでりんご生産者がどんどん減っている。私はやめたくないが、有害鳥獣の頭数を減らすように国に働きかけをお願いしたい。

■市 猟友会にお願いして、有害鳥獣の捕獲を進めている。来年度は国が対策予算を増額すると見込まれ、シカ、イノシシの捕獲頭数の増加、侵入防止柵の設置など適切な対策にあたっていきたい。



市長へ意見書を提出

昨年10月28日、一関市農業委員会は、勝部修市長へ「令和2年度農地等の利用の最適化の推進に関する意見書」を提出しました。



内容については、農業生産基盤の整備促進や担い手への農地利用の集積・集約化、新型コロナウイルス対策など農業・農村が抱える課題解決に向けて、今後の施策に反映していただくよう次の8項目にまとめたものです。

- 1、農業生産基盤の整備促進について
- 2、担い手への農地利用の集積・集約化について
- 3、遊休農地の発生防止・解消について
- 4、新規参入の促進について
- 5、有害鳥獣による農作物被害の軽減について
- 6、新型コロナウイルス感染症対策について
- 7、地域農業マスタープラン実質化に向けた支援について
- 8、農業委員会の人材確保と活動体制の強化について



農業者年金で明るい将来計画!

農業者年金加入を 新たな一歩として

〔大東地域〕佐々木 和典さん



農業者年金のお問い合わせは
農業委員会またはお近くのJA窓口へ
電話 21-8692
(一関市農業委員会)

私は、3年前に東京での会社勤めに区切りをつけ、実家のある一関市大東町に戻ってきました。わが家では、原木乾燥椎茸・ミニトマト・繁殖和牛を軸に農業経営をしており、父母を手伝いながら農作業の経験を積んできました。そして、昨年は個人で、椎茸用の原木千四百本を購入し植菌作業を行い、ミニトマトは栽培規模3アールで作り出し出荷しました。また、秋には新規就農者の認定を受けることができ、農業者としてスタートできた年となりました。今後は、規模を拡大し、経営基盤を固めていきたいと考えています。

このように、新たな一歩を踏み出す時に、農業者年金に加入したことも大きいです。農業委員からの勧めもあり、将来のことを考えて加入することを決めました。母も加入しており、65歳からの受給を楽しみにしています。

今年も、自分の仕事に精進し、地元で頑張っていきます。

農地賃借料情報

平成31年1月から令和元年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10アール当たり)は、以下のとおりとなっています。

① 田(水稲)の部 (10a当たり)	平均額		最高額	最低額	データ数
	一関・花泉地域	6,993円	12,000円	2,500円	926
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	8,626円	14,605円	2,875円	1,840	

② 畑の部 (10a当たり)	平均額		最高額	最低額	データ数
	一関・花泉地域	4,167円	6,350円	2,312円	41
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	3,421円	5,440円	1,564円	46	

- 今回公表する賃借料情報は実際の契約の参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除し全体集計しています。
- 賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めていません。
- 実際の賃貸借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、隣接する道水路などの状況を考慮し、両方で協議の上決定してください。
- 令和2年1月から令和2年12月までにおける賃借料情報は、まともりしたい農業委員会事務局の窓口とホームページでお知らせします(2月ごろを予定)。

全国農業新聞

購読料 月額 700円

全国農業新聞の購読を!
農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。
●お申込みは、農業委員会または各支所産業建設課まで

新しい農業委員・農地利用最適化推進委員を公募します

現在の農業委員及び農地利用最適化推進委員は、令和3年9月をもって3年間の任期を満了します。
新しい農業委員・農地利用最適化推進委員の推薦・応募による募集は、令和3年5月頃を予定しています。

- 農業委員 [募集人数] 24人
- 農地利用最適化推進委員 [担当区域ごとの募集人数]
一関8人、花泉7人、大東5人、千厩4人、東山3人、室根3人、川崎2人、藤沢4人(計36人)

推薦・応募の要件など詳しい内容は、後日市広報等でお知らせします。

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。
昨年、今までの生活がすべて変わってしまった一年ではなかったでしょうか。

世界中の誰もが、いつ終わるかも分からない禍の中に不安を抱えたまま新しい年を迎えてしまいました。そんな中でも、私たち農業者は、大地を守り、食を支えることを変わらずに続けていかねければなりません。しかし、その変わらぬに続けていけることが、逆にとても貴重で、ありがたい仕事であると、改めて農業という仕事に感謝と誇りを持って一年でもありました。

地域農業には課題が山積みです。農地利用最適化推進委員を拜命し、任期途中ですが、少しでもこの地域を守るために、皆様と共に進んで参りたいと思います。

農地利用最適化推進委員
菅原 良博

「いわいの大地」編集委員会
編集委員長 佐藤 圭一
副委員長 千葉 太郎
編集委員 佐藤多賀幸 畠山 潔
菅原 清一 藤原美喜男
遠藤 勝幸 菅原 良博

ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C103798